

## 第3章 協同学習の進め方

---

本章では、Snell & Janney (2000)を基に、協同学習による授業を構築するための8つのステップ（表 3-1 参照）を紹介する。

表 3-1 協同学習による授業を進めるための8つのステップ[Snell & Janney (2000)より著者が作成]

- 
- ステップ 1 : グループの授業の目的を書く。
  - ステップ 2 : 生徒をグループに分ける
  - ステップ 3 : 役割を割り当てる
  - ステップ 4 : 個人の目標を決める
  - ステップ 5 : 教材
  - ステップ 6 : 指導する協力スキルを決める
  - ステップ 7 : どのようにグループを維持するか計画する
  - ステップ 8 : 教師のコメントとフィードバック
- 

以下は、Snell & Janney (2000)の第5章 ”Models of Peer Support in Instruction”の中の“GETTING STARTED WITH COOPERATIVE LEARNING” (p.121~p.128) のほぼ全訳である。一部省略した図表もあるので、関心のある方は原典を参照して頂きたい。

### ステップ 1 : グループの授業の目的を書く。

協同的な活動を計画するに当たっての最初のステップは、授業の目標を決めることである。グループメンバーの各々は目標達成のために責任を負うが、どの生徒も同じアプローチを取る必要はない。生徒が自分たちの成功のためには何が必要かを知るために、目標は測定可能で観察可能な用語で書くべきで、また、成功のための基準も含まれているべきである（例えば、事前テストの点数よりも 30%以上の得点アップ）。授業の性質によって、グループで共有された目標は、あるテストである特定の点数を獲得することであったり、あるいは何かの作品を作ることであったり（例えば、モデルを作成する、一発芸を披露する）、ある問題を解決することであったりする。

## ステップ2：生徒をグループに分ける

協同グループは大抵、民族性、ジェンダー、能力、社会経済的地位の点で異質なメンバーで構成される。年度の初めは、教師はクラスの個々の生徒と親しくないため、生徒はランダムにグループに分けられる。しかしながら、教師が生徒の学力レベルやソーシャルスキルについてわかるようになったら、基礎グループを形成するために、系統的に異質なグループを創っていくことができる。基礎グループによって協同学習が実施されている間であっても、時には、短期間のプロジェクトで、教師が一時的な、つまりその場限りのグループ分けをすることもあろう。教師は、以前と同じプロジェクトを実施するときは、生徒が自分たちでグループを作る(自分でグループを選ぶ)ことを許すこともあるだろう。しかし、これは大概同質のグループ編成になってしまう(例：あるグループでは高学力の友達同士が集まる)。典型的なグループのサイズの範囲は、2人から6人である。基礎グループのメンバーは、全ての生徒がそれぞれクラスメートと一緒に協力し手作業できる機会が持てるように、順番に交替するべきである。

## ステップ3：役割を割り当てる

グループのメンバーに役割を割り当てることによって、生徒たちにグループ活動の間、ある特定の課題に対する責任を持たせることになり、また、ポジティブな相互依存を助長することになる。役割は課題に関連させることもできるし、(作業)過程に関連させることもできる。教師がその生徒のスキルに適した役割を割り当てることもあるし、生徒に自分の興味やスキルに合った役割を選ぶように言うこともある。表 3-2 は協同グループに典型的な役割のいくつかをリストに挙げたものである。



表 3-2 協同グループにおける役割 (Putnam, 1997)

記録係	グループの作業について記録をまとめたり、ノートをとったり、答えを書いたりする。
読み上げ係	教材に書かれてあることや、グループの答えを読み上げる。
要約係	グループで決まったことを総括したり、みんなで共有したアイデアを要約する。
勇気づけ係	グループメンバーがよく遂行できたこと、あるいは課題に取り組み続けたことを強化し、目的達成への強い決意を植え付け、メンバーが参加するよう誘う。
案内係 (Courier; 添乗員、案内人、 イタリア語で使用者の意)	グループに教材を持ってきたり、目的を達成するためのメッセージや課題を運ぶ。
チェック係	みんなが課題をしているか、(グループで考えた) 解答に同意したかどうか、課題や議論、あるいは解答について理解しているかどうかを確認する。
質問係 (Interrogator)	グループのメンバーに解答を明確にしたり、表面的な反応を避けたり、より深く物事について探求するよう促す。
マネージャー係	進んできた方向で達成出来るようにし、グループプロセスをまとめ上げる。
タイム・キーパー係	時間に気を配りながら、グループが課題をし続けたり、次の課題に進ませたりする。
声のコントロール専門家係 (Voice control technician)	グループの声の大きさのレベルを観察して、静かにした方がよいときにはそれを伝える。
イコライザー係 (Equalizer)	確実に公正かつ思いやりを持ってグループメンバーが扱われるようにする。つまり、参加の機会が与えられ、グループの作業から恩恵を受けられるようにする。

## ステップ4：個人の目標を決める

個人の説明責任 (accountability) を確実にするために、そして進捗状況を把握するために、教師は個別化された、測定可能な目標を設定すべきである。たいてい、IEP (個別教育計画) を持っているグループメンバーは、グループの課題に関連した個別的な達成目標を持っているだろうし、アコモデーションや場所の modification を持っているだろう。チームのメンバー間でその努力の度合いや参加の度合いが不公平であると、グループの動機付けや到達度にマイナスの影響があることが、研究から示されている (Cosden & Haring, 1992) [太字は訳者による]。しかし、これはみんなが同じ目標を持っていないからではない、という意味ではない。学級の子どもたちが「みんなが、同じ事柄を学んだり、あるいは同じ方法で学ぶわけではない」[太字は訳者による]ということに慣れてきたら、個別化

は全てのグループメンバーが貢献することができる方法として受け容れられるだろう。

## ステップ5：教材

教材を取りに行ったり、配ったり、返却したりすることは、生徒によく割り当てられるグループの役割である。また、教師は、生徒がグループと個人の目標の両方を達成する必要があるような教材を利用したり、教材の一覧リストを作成することもできる。

## ステップ6：指導する協同スキルを決める

協同スキルとは、対人的なもので、グループの参加を効果的にするために必要なチームワークスキルのことである。年少の生徒たちは、典型的には、グループに居続けるとか、教材を共有するとか、やりとりする（turn takings）とか、アイデア探しに貢献するとか、他者を励ますとかいったスキルを学ぶ必要があるだろう。中等教育段階の生徒は、傾聴すること（active listening）や、建設的な批判をしたり、受けたりすること、別の言葉で易しい表現に言い換えること、時間を管理すること、葛藤を解決すること（conflict resolution）といったスキルを発達させることが必要だろう。障害のある生徒の場合、かれらのある特定の障害、あるいはスキルのレパートリーに関連して、協同スキルについては手助けが必要な者もいれば、単に苦手な協同スキルを改善することだけが必要な者もいる（Cosden & Haring, 1992）（図 3-1）。

### 最重度の障害のある生徒の場合

- ・誰がグループメンバーなのかわかる。
- ・グループメンバーに挨拶する。
- ・グループの活動に部分的に参加するためのスキルを発達させる。

### 軽度の障害のある生徒の場合

- ・適切な質問をする。
- ・自分の考えを述べる（Asserting ideas）。
- ・グループの他者の発言を注意して聞く。

### 障害のない生徒の場合（以下に挙げたスキルは、個々のスキルの小さなまとまりになっている）

- ・グループメンバーを効果的に相互交渉させるようなコミュニケーション・スキル（例：他の生徒の、はい／いいえのサイン、絵カード、あるいは、補助具に慣れる。押しつけがましくなく参加するように生徒にプロンプトする方法を知っている。）
- ・協同グループの課題をやり通すように、グループメンバーを互いに動機づけさせるといった、ピアサポートに付随する行動。

図 3-1 「障害のあるメンバーが協同学習グループの相互交渉から恩恵を受けるために必要なスキル」 (from Cosden & Haring, 1992)

## ステップ7：どのようにグループを維持するか計画する

協同学習の目標は、しばしば観察を通じて最善の状態についてモニターされる。すなわち、教師はグループを順に巡回し、生徒を観察して、グループの作業の中でどんな協同スキルを使っているかについて手早くメモを書き留める。縦軸に生徒の名前、横軸の一番上に標的の協同スキルを書いた表が観察結果を記録するために一番簡単な方法だろう。今使用されたスキルについては「+」マーク、仲間や大人にプロンプトされた場合には「P」のマーク、使用されていない、あるいは十分でないスキルには「-」のマークをつける。これらの結果について各行（各児）の結果を分析することによって、いつグループまたは個別の指導が必要なのかを決める手助けとなる。

## ステップ8：コメントとフィードバック（ふりかえり）

グループメンバーは自分たちグループがどんな風に機能していたかについて、教師にコメントを求めることができる。それから、教師はグループとふりかえりを共有する。この課題は、年少の生徒にはたいていの場合、難しい。Tチャートと一緒に使って議論することによって、生徒たちはソーシャルスキルを自分たちが理解出来る言葉で定義づけることができるということを、何人かの教師たちはみつめてきた（Tチャートについては図 3-2 の上段参照）。シンプルグループプロセスチャートは、ある特定のソーシャルスキルの使用について、グループで自分たちの進歩を自己評価できるよう手助けしてくれる（図 3-2 の第2段目に、小学校低学年に適用した例がある。年長の生徒にも修正して適用できる。）

Dugan ら（1995）は、自閉症の同級生が1名在籍する第4学年の生徒にソーシャルスキルを教えるために最初、学級ゲームを使用した。そして、社会科を協同学習グループで行うという文脈において、スキルを精練した。アクリニム（acronym：頭文字を組み合わせて作った略語）「SCORE」が、5つのソーシャルスキルを覚えるために使用された。

- **Share your ideas with others.** 自分の考えを他者と共有する。
- **Correct each other's work.** お互いの作業の間違いを訂正する。
- **Offer praise to each other.** お互いにほめ合う。
- **React others, but do so calmly.** 他者に反応する、ただし冷静にそうする。
- **Encourage and help other groups members.** グループメンバーを励まし、手助けする。

## 1. 社会的な目的を子どもに定義させるためのTチャートの使用

教師は生徒に自分たちが作業するときのある特定の行動について焦点を当てるよう求める。そして、それはどんな風に見え、どんな風に聞こえるかについてブレインストーミングする。教師は生徒たちの定義を記録するために（下図のような）Tチャートを使用する。

### 静かな声を使おう

見えるもの	聞こえるもの
互いに対面する； 一步離れて 接近して座る 膝がくっつく 互いに見つめ合う	ささやき声 “一步分（聞こえる）声” 穏やかな声 とても静か

## 2. 協同的グループ授業のふりかえり

グループセッションの終わりに数分のグループのふりかえりの機会を持つ。

- ・ 最初に、ニコニコマークの表を使って、自分たちのことを評価するように求める（下図左側の表）。
  - ・ その後、2つの開かれた質問（open-end questions）に答えるよう求める（下図右側）。
- クラス全体で何が起こったのかについて議論した後、ふりかえりの機会を持つ。
- ・ 生徒はグループに残ったままで、教師が授業の学習内容や社会的な目標について話し合うように促す。
  - ・ 生徒は自分たちのグループのデータを観て、どのようにグループがうまく行ったかについてと、次の授業ではどんなことをしたらよいかについて話し合う。
  - ・ 教師は、グループにフィードバックを与えるためのデータを集め、生徒たちが一緒にうまく作業できたよい例を指摘する。

最初のグループプロセスふりかえり表	授業後のグループプロセスふりかえり表
<p>私たちはどんな風だったかな？</p> <p>私たちは静かな声を使いました：</p> <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>私たちはルールを守りました：</p> <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/></p> <p>ここにサインを</p> <p>_____</p>	<p>私たちのソーシャルスキル：</p> <p>私たちはどんな風だったかな？</p> <p>次回は私たちはどんなことをしますか？</p> <p>ここにサインを</p> <p>_____</p>

図 3-2 協同的なグループスキルについて定義したり、モニターしたり、ふりかえりをするために一年生に教師が使用した方法 (Ayles, B., O'Brien, L., & Rogers, T., 1992)  
【次ページに続く】

### 3. ソーシャルスキルの使用についてのモニター

- ・ グループを始める前にスキルについて話し合う。
- ・ グループ活動の後、どんな風によくできたかについてクラスで一緒に話し合うことを生徒に伝える。
- ・ 教師は生徒達がグループ授業の間どんな風に作業していたか観察することを生徒に伝える。
- ・ 教師はグループからグループへと周り、必要ならば、指導上の目的や社会性に関する目標について覚えておくべきことを提供したり、援助したりする。
- ・ 生徒の／グループの名前の書かれた手早く書き留められる記号を使って（下図参照）、教師は授業中に生徒の社会性に関する目標についてのデータを集める。

記号		+		-	
1 = 静かな声		= 良い		= 改善が必要	
2 = 役割を果たし続けている					
チャイ・リー ドゥグ ルイス	エヴァ ブラッド テリー	ウィリアム セリス ダイクワン	レイチェル ケイティ アルム	ジャメル キアラ ラッセル	
キャサリン ダニエル トーン	トニー クリストファー タマラ		エリン ジョアン ベス	キルク テリスタ シャノン	

図 3-2 協同的なグループスキルについて定義したり、モニターしたり、ふりかえりをするために一年生に教師が使用した方法 (Ayres, B., O' Brien, L., & Rogers, T, 1992)

